









# 「お金ない人、戦争に?」

## 巣に忍び寄る経済的徴兵制の確保

〔共同〕自衛隊の役割を広げる安全保障関連法が施行された。自衛官の確保が厳しさを増す中で、若者の間で「経済的徴兵制」が話題になつてきている。貧困や格差など厳しい現実にさらされ、自分たちの将来に不安を募らせる。



「対象になるのは自分のような人間かもしれない。不安も現実感もあります」。この春、大学を卒業した京都府の団体職員北村諒さん(22)は、在学中から安保関連法と経済的徴兵制が結び付いていると感じている。兵役は志願制だが、

経済的徴兵制とは、貧しい若者が事実上、軍隊に入る道を選ばざるを得ない状況をいう。よく知られるのが米国の現実だ。兵役は志願制だが、

北村さんは、「アルバイトで学費の一部を工面し、日本学生支援機構は、在学中から安保関連法と経済的徴兵制が結び付いていると感じている。兵役は志願制だが、

始まるが順調に返せるのか」と気が重くなる。だが周囲には奨学金を引かれて入隊する貧しい若者が少なくない。ジャーナリスト堤未果さんは、「学生時代に借りた学資ローンの返済などのため戦地に赴いた多くの米国人を取材。入隊する

北村さんは、「結局、戦争に行くのはお金がない人なのでしょうか」と

人のうち47人が自衛官への任官を辞退。辞退者は14年度の2倍近くとなつた。幹部自衛官を育てる防衛大学校では今春、卒業した日本人学生419

人が、犯行声明を出した過

安保関連法が成立した2015年度は、主に高校新卒者を採用する「一般曹候補生」の応募者数が2万5092人と、1

4年度から約2割減った。幹部自衛官を育てる防衛大学校では今春、卒業した日本人学生419

人が、犯行声明を出した過

安保関連法が成立した2015年度は、主に高校新卒者





